

【ご参考資料】

2015年6月29日

混迷深まるギリシャ支援問題

ポイント1 合意に至らず

支援条件に関するEU（欧州連合）などの支援者側からの提案に対し、ギリシャ側は7月5日に提案受け入れの是非を問う国民投票の実施を決め、1か月の支援延長を要請しました。しかし、支援者側は拒否し、6月30日に支援を打ち切り、IMF（国際通貨基金）の融資返済を求めています。

さらに、ECB（欧州中央銀行）はギリシャの銀行の支援枠拡大を見送ったため、銀行の資金繰りが預金流出で厳しくなり、ギリシャ政府は銀行休業と資本規制導入を決めました。

ポイント2 不安感高まるユーロの行方

ギリシャの債務不履行や金融システム動揺の懸念が大きくなってきたことなどから、通貨ユーロは売られ、週明けのユーロの対米ドル・レートは一時前週末より2%程度ユーロ安となりました。日本はユーロ圏の問題の影響が少ないと見られることなどから、資金の逃避先として円が買われ、円は米ドルに対しても上昇しました。

ポイント3 先行きの情勢は不透明

6月30日までに合意するには、ギリシャが国民投票を中止して支援者側提案に応じなければならず、困難な状況です。

IMFへの返済ができなくても、「支払遅延」として扱われ、債務不履行には該当しないという見方もあります。国民投票の結果を待って再度交渉に臨む可能性もあります。

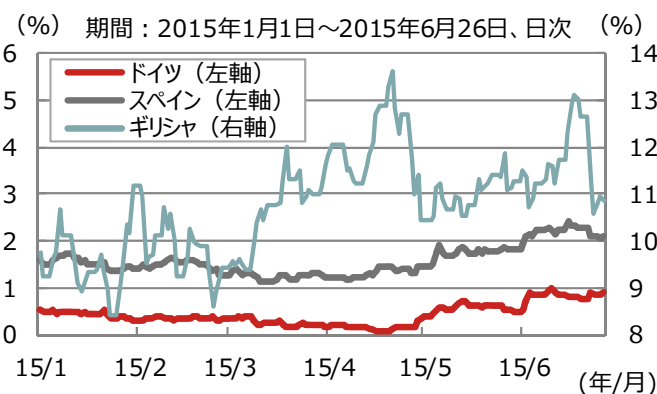
しかし、ECBのギリシャの銀行支援が続けられなければ、ギリシャの金融システム破たん、ユーロ離脱の懸念が高まりかねず、情勢は不透明です。

重要イベント

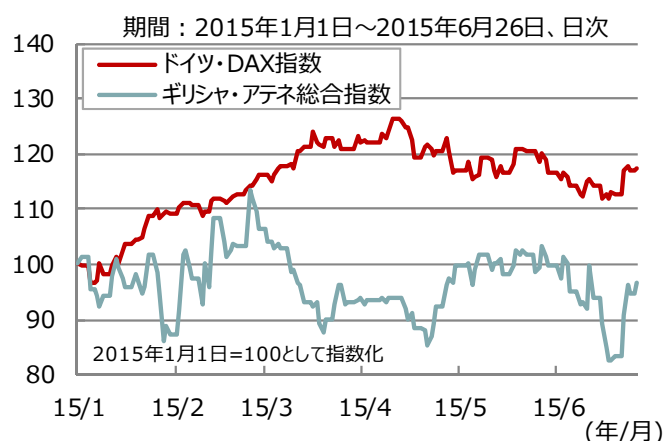
2015年6月30日	ギリシャ支援策期限、IMF融資返済期限
2015年7月5日	ギリシャ国民投票実施予定
2015年7月14日	ギリシャ円建て国債償還(117億円)
2015年7月20日	ギリシャユーロ建て国債償還(35億ユーロ)

重要イベントは現地時間で記載しています。

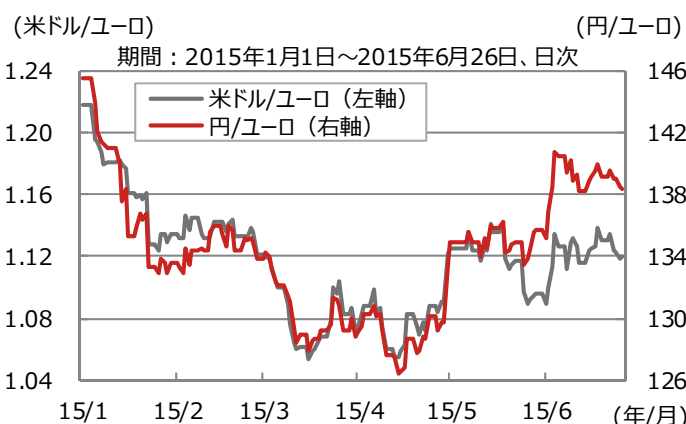
【図1】各国の10年国債利回りの推移



【図2】株式指数の推移



【図3】為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。